「平成 30 年度、共に育ちあう喜びの心と、失敗から学ぶ謙虚な心を持ってゆりの樹幼稚園はさらに進化します!」

園長　髙杉美稚子

変わることにはリスクが伴う。しかし、変わらなければもっと多くのリスクが伴う

（ジョン・ヤング・アメリカの宇宙飛行士の言葉から）

私達職員も、期待と喜びで胸が一杯の春４月がやってまいりました。
今年は吉塚創立66 年目、玄海、地島 11 年目、また新しい扉の幕開けの年です。

保護者の皆様も、園児たちも、大丈夫かなあーと心配や不安も沢山ある事でしょう。その不安が少しでも少なくなるように、そして、喜びがもっともっと増していくように、保護者と子どもと教師と三位一体の協力体制のもと、一生懸命、充実した保育を実践し、この新しい出発にあたり、常に、幼児の立場に立って、保育とは、幼児にとって幼稚園とは、園生活とは何か、という基本に立ち返り、幼児一人一人と共に充実した幼児期を私達大人も共に過ごしていきましょう。私達、教職員も精一杯頑張ります。どうか、今年度も保護者の皆様のご協力とご理解をお願い致します。

さて、ゆりの樹幼稚園の教育のキーワードは三つです。**「安全」「安心」「感動」**の三つです。
ゆりの樹幼稚園の教育のキーワードの三つ目**「感動」、「教育は感動だ！」の言葉が私は大好きです。**

「教育は感動でできている」といっても過言ではないと私は感じています。**「感動無くして教育も子育てもない」**とも考えています。**子ども達が行動変化し、成長する姿（エクスチェンジ）**をみて、保護者の方が感動し、我が子に感動の言葉をかけることが子ども達の成長に一番繋がります。
そして、その姿を見て私達職員も、感動し、教職員としての人生を充実させることが出来ます。感動のないところに成長も教育もないと私は考えます。

人間の祖先がネアンデルタール人とホモサピエンスに分かれるときの分かれ目は**「言葉を持ったかどうか」**だったといわれています。人間関係も長い付き合いになると、もう言葉もいらないという領域に達するのでしょうが、それはなかなか難しい聖域ですね。
人間関係を保つ為には、感動するためには、まずは人へと進化するために必要だった、この言葉の使い方が大切です。親や教師、子どもを取り巻く大人の私達が子ども達の成長の姿を見て感動できる感性をいつまでも持ち続け、その**わずかな成長にも目を向け、小さな言葉に耳を傾け、心で感じ、感動したことを適切な言葉で伝えること**が子どもの成長のためには大切です。

最近は将棋界がとてもにぎわっています。プロ棋士の羽生善治さんが、あるＴＶ番組でお嬢さんからメッセージを受け取る場面を見ました。お嬢さんが「言葉が人をつくる」という言葉を父がよく言っているとして紹介していました。

どんな言葉遣いをするかで自分の考え方や行動、生き方までも影響を与えるから気をつけなさい、というのが羽生さんの真意だそうです。言葉には力があります。ダメだなあ、疲れたなあと言っていると、脳がそのように感じて本当に疲れを強く感じてくることがあります。そして、反対に、**「大丈夫、大丈夫、まだ頑張れる、もう少し頑張ってみよう、やってみなければわからない、だから、とりあえずやってみよう」などと言い直すと、パワーが出てきます。本当に最後まであきらめないで続けることができたりします。**不思議ですね。

反対に否定的な言葉を多く使っていると、ますますマイナスに考えてしまいます。人に対して雑な言い方をしていると態度まで雑になっていきます。身体の健康状態にも影響を与えることがいろいろな研究で分かり始めています。

例えば「ありがとう」と言えば病気は治っていくという情報があります。「ありがとう」というとエンドレフィン

が増加し、がんを抑える細胞が増加し、ガンが小さくなるのだそうです。
「ありがとう」という感謝の言葉で、ガンが治るという奇跡的な生理現象は、世界の医学界でも認知されているそうです。ガンは性格によって大きく左右されることも解明されています。使う言葉に気をつけて生きていくことが必要なようです。『わ・は・は・は』と笑うことで長生きできることも実証されています。

「人生は思い通りにはならない」当たり前ですね。だからこそ、つらい、苦しい、悲しい出来事に遭遇したからこそ成長できたと感謝し「ありがとう」と伝え、そのことを受け止められない自分がいるからこそ、そのことが起きたのだと前向きにうけとめ、『わ・は・は・は』と笑う毎日を送りたいと思います。
人生で逆に１００％自分が思い通りに出来るともいわれています。そんなことは無い。あるはずが無い。普通そう思いますよね。でも、あるんです。それは、起こったことに、どのような意味づけをするかです。

思い通りにならないことばかりに気持ちがいき過ぎていると、どんどんエネルギーを消耗し落ち込んでしまいます。それよりは、起きたことに対する意味を自分にプラスに働くように考えたほうが得です。正しいか正しくないかは、ちょっと脇に置いて、自分がとく（このとくは得ではなく人徳の徳です）するように受け止めて意味づけしてみるのがいいかもしれません。

そして、この意味づけは、自分のコントロールが効くところが大事なところです。最大のメリットは、自分の頭の中での考えなので、誰にも迷惑はかかりません。
「失敗は無い。学びとやり直し、再チャレンジできる勇気とそこに愛があるかだけ」です。起きてしまった出来事は、どのようにでも、自分が自分にプラスに意味づけができるということですね。

過去の出来事から後悔するのではなく、次につながる学びを得ようとする頭の切り替え「柔軟性の大切さ」が大事だと思います。「このことから何を学んだんだろうか？」「このことのプラスの面はなんだろうか？」「つぎにもっと良い結果を得るためには、何をすればいいだろうか？」自分自身に対するこれらの問いかけの習慣をつけてみるといいかもしれません。そして、転んだからには、泣いたからには、苦しんだからには、ただでは起きないぞ、「そこにある石でも砂でも、草でもつかんで立ち上がろうという気力と勇気と行動が必要です。」

行動変化です。**エクスチェンジ**ですね。自分の根本は変えられない部分もあります。小学校から、何も変わっていない自分に時々出会います。中身を変えるのはなかなか難しいですね。だからこそ、**少しだけ行動を変えればいいのです。少しだけ行動を変えることが、人からは違って見える、人から成長したと見えるのです。だから、小さな行動ステップでいいのです。自分を客観的にみて、少しだけ行動を変えてみましょう。勇気をもって。**
そして、**行動を変えることで、自分の中の奥底に、いつの間にか変化が起きているのです。それが成長**です。

そのために最も必要なことが**「感情に気付くこと」**です。自分の感情に気づかない限り、自分がどのような感情、動機に突き動かされて行動しているのか気づかない限り、自分の行動は納得できなくなるのです。感情に気づけば、自己選択、自己決定ができ、自分を承認し、自信がつき、自分に自信があるから、自他分離し、他人も自分も「これで良し」と、共感し、そこに真の自立があります。これが自他肯定です。

今年３月の玄海ゆりの樹幼稚園の洋史園長の卒園式のお話です。
『未来にはばたく皆さんに、いちばんたいせつなことの話をします。それは、自分の気持ちに気づくということです。自分の気持ちに気づけば、家族のお母さん、お父さん、兄弟の気持ちが分かります。家族の気持ちに気付けば、友達の気持ちが分かります。一番大切な、自分の気持ちに気づくということが、なぜ一番大切かというと、自分の気持ちが自分でわかるということはとても難しいことだからです。自分の気持ちがわかるようになると、我慢することもできるようになります。

自分の気持ちがわかるようになると、お母さんや先生や友達に、自分の気持ちを伝えることもできます。自分の心が困ったなあと思っているとき、「助けて」が言えます。喧嘩をしているときは自分で自分の気持ちがわからなくなっているときです。逆に、世界中で最も美しい言葉は「ありがとう」という言葉といわれていますが、それは自分自身が自分の気持ちをよくわかっているから、心のこもった「ありがとう」が言えるのです。あなたの心が美しいから「ありがとう」ということばが美しく輝くのです。（中略）大人にとっても自分の気持ちに気づくことは大切です。保護者の皆様は我が子の心は自分のこと以上にお分かりになると思います。ご自身の心も大切にしてください。』

まさしくゆりの樹幼稚園が大切にしている、感情、気持ちを育てる「**心の教育**」の話です。
小さな子ども達はまだ、言語を正確には会得していない時期でも感情は豊かに持っています。子どもが「悲しい、悔しい、情けない、苦しい、寂しい、辛い、怖い、嬉しい、楽しい」という感情を持っている時に、大人が「悲しいんだね、・・・楽しいね。」と感情を受け止め言葉を適切にかけてあげることによって、子ども達は、今、自分が感じていること、これが「悲しい・・・楽しい」ということなんだと、言語と感情を結び付けていきます。

感じた時に適切に、大人に言葉かけをしてもらって感情と言語が適切に結びついていった子どもは「悲しそうな、悔しそうな、情けなさそうな、苦しそうな、寂しそうな、辛そうな、怖そうな、嬉しそうな、楽しそうな顔」をしている人を見ただけで「悲しいんだね、・・・楽しいね。」と受け止め、相手に「愛と思いやり」をかけ、悲しみ、悔しさ、情けなさ、苦しみ、寂しさ、辛さ、怖さを半減し、人の嬉しさ、喜びを共に感じ一緒に2倍にも3倍にもしていく力が生まれるのです。そうやって、感情と言語が密接に関連しながら発達して、人の間で、人と心を分かち合いながら、人を支え、人に支えられながら社会的動物「人間」に育っていくのです。

子ども自身が大人から何かできるから認められるのではなく、自分の存在をそのまま喜ばれる体験や自分が始めた事を大事にされる体験、人間関係の中で自分の気持ちを大事にされた体験をいっぱいしなければ人の気持ちを大事にする、大人になっていくことが難しい事を考えれば、私たち自身がそのような体験を大人集団の中ですることが大切です。
親は子育ての中で、教師は保育の中で、いずれ自分の課題に直面することは避けられません。自分の問題としてとらえた時問題は既に解決に向かっています。誰かのせいにしている間は問題は閉じ込められてしまいます。親や教師は子どもの問題によって、子どもによって教育されます。このときの自分自身や、周りの人との対話で自分の自信を成長させるほかありません。だから**「子育ては自分育て」**なのです。

そして、自分の気づきに、自分の奥底にある感情に気づいて親も子どもを一人の人間として素直に表現することです。素直になれば、柔らかくなれます。正直であれば、力が入りすぎることはないからです。なかなか難しい場合もあるかもしれませんが、同じ子どもたちを育てる親、教師としての喜び、悲しみ、苦しみなどの奥底にある感情は共通するものがあります。
たとえ、行動パターンや、考え、立場は違っていてもその感情は理解しあえます。だから自分の行動にある感情に気づいて表現することが、必要なのです・・・。その事を表現することによって、お互いの悩みや、驚き、疑問、喜び、苦しみ、悲しみを共有することが出来、お互いの理解が増し、最終的に互いに変わっていくことが出来ます。

立場が違えば、行動や、考えが違って当然です。そして、その違いを認めた上でのお互いの深い理解が大切です。その事を越えた向こうでの理解が大切です。そうすることで、行動や考えの違いを認めることが出来るようになります。人間が、皆、全く、考えや行動が同じであることのほうが恐ろしいですね。感情の理解が出来れば、行動や考え、方法は違ってもいいのです。それが個性です。それこそが人間社会の教育だと考えます。

だから大人が、先ずはみずみずしい感性を持ち続け、子どものわずかな成長の変化に気づき、感動し、それを言葉や行動で表現し、伝えることが大切なのです。教育は目に見えることを教え育てることも大切ですが、もっとも大切で難しいのが、この目には見えない心の部分、見えない、「愛と思いやりとは何か」を育てることです。

アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの「星の王子様」の中にこのような文があります。
「本当に大切なものは目では見えないんだよ。心の目でみなくちゃ」目に見える教育をすることも難しいけれど、本当に大切な教育は目には見えない部分、心の教育です。
その為には、どうしたらよいでしょうか。

その為に必要なことがゆりの樹幼稚園が考える体感を通した**「感動の教育」**だと考えます。
自分の気持ちに気付くと、自己コントロールができるようになり、人付き合いが苦しくなくなります。楽しくなります。そのためには、**「相手と時と、場所といい方と、その量とタイミングを考えた言葉の使い方」**も大切です。

幼い子どもの教育の為には、また職員の資質の向上のためには、職員同士の連携、子どもとの連携、家庭との連携

そこには信頼が最も大切です。そして、親も子どもにも、**「先生大好き。ゆりの樹幼稚園　最高！」**というこの信頼関係を持って頂くことで教育の効果が一層上がるのです。幼児期は、依存から自立に向かって成長していく過程です。親から次第に離れて、友達の励ましや支えを受けたり、認められる事によって自分の力を貯えてきます。

感動のある体感教育を通して、幼児自らの経験として組みこんでいく楽しさと必要性を知っていく時期でもあります。大勢の仲間がいて、仲間と一緒に生活を共有し、互いに影響しあって、「共に育ち合う喜び」を知っていく時期だといえます。これは大人も一緒です。集団生活において、子どもだけでなくまずは親同士、親と職員がこの「共に育ち合う」事が一番大切な事です。皆がいるからこそ成長できたと思える、信頼関係が大切です。１人の力が１０人、あるいは１００人になることがゆりの樹幼稚園の教育の願いです。

どんなに素敵な人が多くいても、一人の配慮のなさが全体の成長を止めます。だから皆で、**勇気と知恵を出し合って、謙虚さと柔軟性と正直な心、愛と思いやり勇気をもって**、親も先生も子どもと共に「育ちあい」ましょう。**『ありがとう』の言葉を忘れずに・・・**

子ども達の教育においては、私達、大人は、この「育ちあい」を如何に素晴らしいものに発展させてあげるかの「添え木」です。この「添え木」の役目は重大で、この添え方次第で子どもの育ちあいの方向が決まるといっても過言ではありません。だから自分自身が、一人一人が成長し、周りの人を支える人になりましょう。
子どもの教育と同じように「手をださず、口をださず、目をはなさず」の言葉通り、子どもの育ちあいにまけないよう、お互いに感謝の心を持って、教師も共に育ちあう素晴らしい飛躍の１年でありたいと思います。

人間関係の根底にあるものは、相手をそのままでよいと認め、存在を否定せずに、一緒にいる事が出来る、相手が始めようとした事を尊重し、相手とのやり取りを楽しむ力です。人の中で生きていくことの楽しさをしることです。大人の世界でも人とのかかわりが希薄になっている時代です。傷つくことを恐れて、あまり人とかかわらずに済ませてしまおうという傾向すらあります。かかわらなければ当然衝突もありませんが生きていく楽しみは取り巻く人々とのさまざまな営みです。

さあ、平成３０年度の始まりです。この「ゆりの樹」で皆さんはどんな花を咲かせるのでしょうか？その為に必要なことは・・・この幼稚園で、子どもたちが小さな幸せを見つけていく方法・・・それがゆりの樹幼稚園の教育方針であり、教育理念、**「10E と目指す人間像」**です。

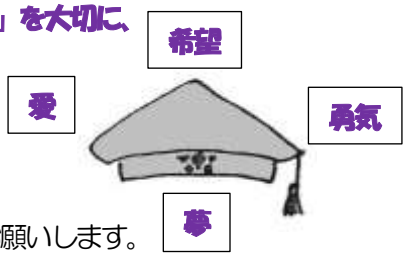
どんな花を咲かせるかはそれぞれですが、どんな花であれ、その花を咲かせていく為に必要なこと、子ども達の成長の為と自分が幸せと感じられる自分である為に手を取り合って、
「置かれた場所で咲きなさい」の言葉を大切に、心を一つにして歩んでいきましょう。
まずは小さなはじめの一歩から・・・**変化と失敗とやり直しと学びを恐れずに**

今年一年も、子ども達、保護者の方、職員と共に歩き、驚き、響きあいながら、共に成長したいと思います。
「人は夢を育て、夢は人を育てる
親、教師は子どもを育て、親、教師は子どもに育てられる」

毎日の職員朝礼、終礼のサンキューメッセージのあいさつの後、皆で声に出す最後の言葉です。
「いいね！素敵だね！大好き！」　目じりを下げて口角を上げて両手をお空に広げて「わっはっはっはあ！！！」

「右手に愛、左手に勇気を携えて行動すること、夢と希望を最後まであきらめないこと」を大切に、一年間歩んでまいります。

ゆりの樹幼稚園の角帽の四つの角の意味です。



最後まで読んで頂きありがとうございました。今年度もどうぞご協力ご支援を宜しくお願いします。